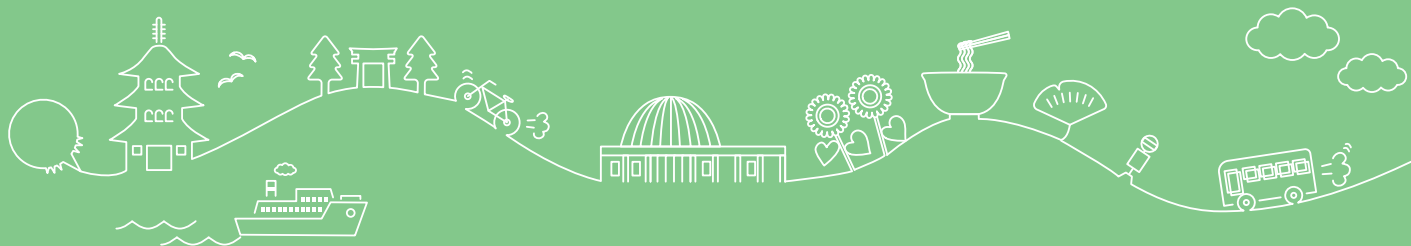


第1章 総論

第8次笠岡市総合計画

- 1 総合計画について
- 2 笠岡市の概要



KASA●KA

1

総合計画について

(1) 総合計画とは

総合計画とは、笠岡市の目指す将来像とその実現に向けた施策を表したもので、まちづくりの指針となる本市の最上位計画です。

本市では昭和45年以来、7次にわたって総合計画を策定し、まちづくりの施策を推進してきました。

昭和44～50年度	笠岡市振興計画「明るい、住みよい、笠岡市」
▼	
昭和54～60年度	笠岡市振興計画「希望と安らぎのある近代的田園工業都市」
▼	
昭和62～平成5年度	第3次笠岡市振興計画「ゆとりと生きがいのある人間尊重のまち」
▼	
平成 6～13年度	第4次笠岡市振興計画「こころやさしい生活元気都市」
▼	
平成14～21年度	第5次笠岡市振興計画「みんなで築く生活元気都市」
▼	
平成22～29年度	第6次笠岡市総合計画「市民協働で築くしあわせなまち 活力ある福祉都市かさおか」
▼	
平成30～令和7年度	第7次笠岡市総合計画「元気・快適・ときめき 進化するまち笠岡」

総合計画の基本部分である「基本構想」の策定については、地方自治法により定められていましたが、平成23年5月の法改正により策定義務はなくなり、策定の判断は各自治体に委ねられることになりました。

本市では、笠岡市自治基本条例に則り、目まぐるしく変化する社会情勢の中にあっても、本市の特色や地域資源をいかし、市民の多様なニーズに対応できる住民に身近な計画として、今後8年間のまちづくりの指針となる「第8次笠岡市総合計画」を策定します。

(2) 計画の構成

① 基本構想

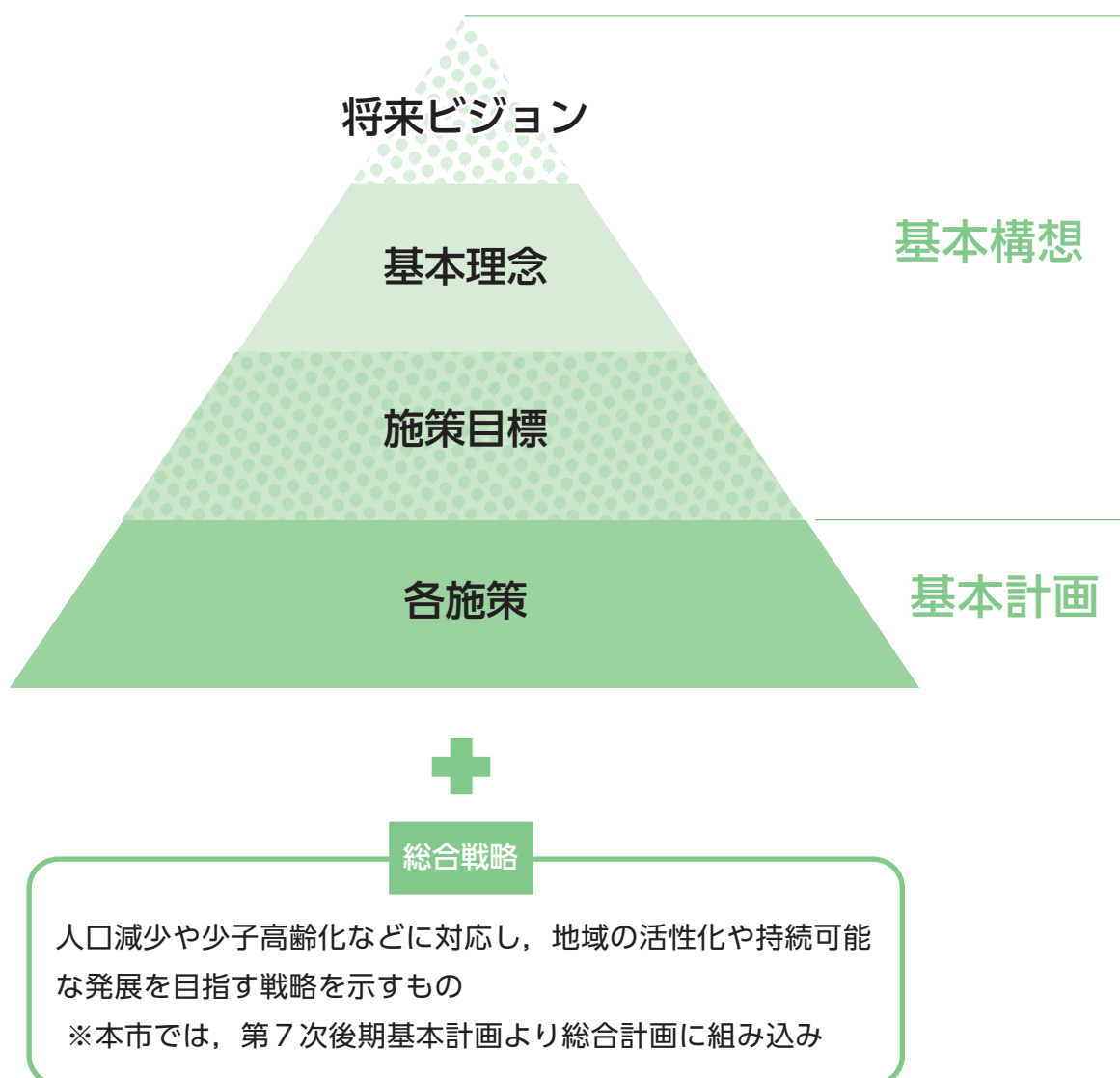
本市の目指す「将来ビジョン」を示し、その実現に向けた「基本理念」を明らかにするとともに、各分野における「施策目標」を示します。

② 基本計画

基本構想に基づき、各分野の目標となる指標を設定した取組の内容を示します。

③ 総合戦略

令和4年に国において「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」を抜本的に改定し、「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を策定したこと、また、令和7年6月に「地方創生2.0」の基本構想を策定したことを受け、本市でも令和7年度に計画期間終了となる「第2期笠岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を改訂し、「笠岡市総合戦略(第3期)」を策定し本計画と一体化します。



(3) 計画の期間と進捗管理

① 基本構想

基本構想の計画期間は令和8年度(2026年度)から令和15年度(2033年度)までの8年間とします。

② 基本計画

基本計画(目標となる指標等)の計画期間は令和8年度(2026年度)から令和11年度(2029年度)までの4年間とし、毎年度、進捗評価・検証を行うとともに、期間終了後は見直します。

③ 総合戦略

総合戦略の計画期間は、令和8年度(2026年度)から令和11年度(2029年度)までの4年間とします。

西暦(年度)	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033
令和(年度)	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
基本構想	【 8 年 間 】							
基本計画	前期基本計画【4年間】				後期基本計画【4年間】			
総合戦略	【第3期】				【第4期】			

2 笠岡市の概要

(1) 笠岡市民憲章

笠岡市民憲章は、市民生活の指針、行政の指針となるものです。
本計画においては、市民憲章の理念に沿って取組を進めていきます。

笠岡市民憲章

昭和 47 年 4 月 1 日 制 定
平成 14 年 4 月 1 日 一部改正

笠岡市は、ゆたかな伝統と美しい自然に恵まれた希望のまちです。
わたしたちは、笠岡市民であることに誇りと責任を持ち、
この憲章を心のささえとして日常の生活にいかし、
明るく、住みよいまちづくりを進めます。

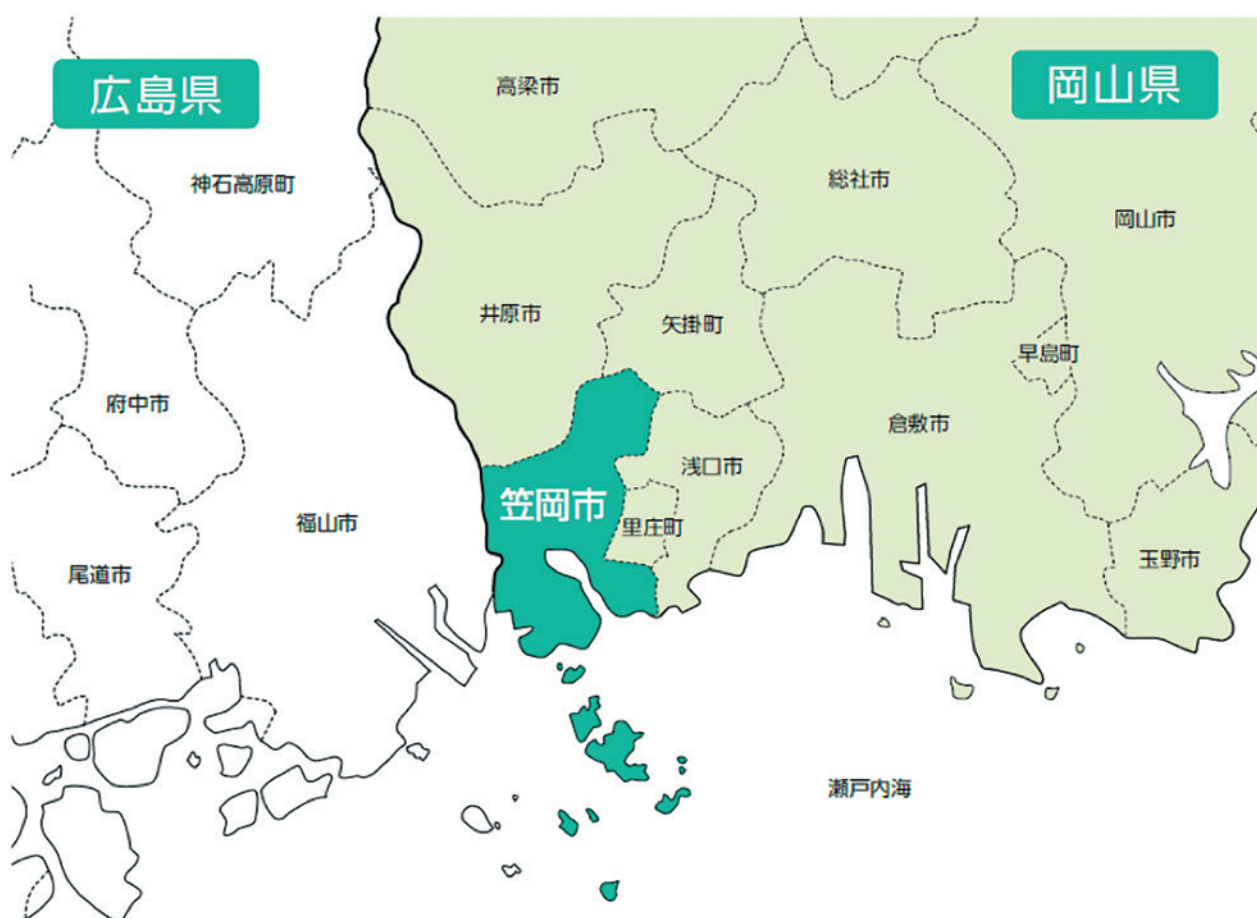
- 1 自然を守り、緑と花とを育てましょう。
- 1 親切をつくし、礼儀を正しくしましょう。
- 1 こどもと老人のしあわせをはかりましょう。
- 1 元気ではたらくよろこびに生きましょう。
- 1 教養を深め、文化の向上につとめましょう。

(2)位置的・自然的特性

本市は、岡山県の南西部に位置し、東西 13.6km、南北 33.6kmにわたり、市域面積は 136.07km²あります。

東は浅口郡里庄町、浅口市、北を井原市と小田郡矢掛町、西を広島県福山市に接しており、南は瀬戸内海を隔てて香川県と接しています。

主な特性として、①気候は温暖少雨の典型的な瀬戸内式気候、いわゆる「晴れの国」であり、豪雨や地震による災害履歴が少ないこと、②海・島・山といった瀬戸内海の風光明媚な自然環境に恵まれ、さらには笠岡湾干拓地や笠岡市北部における昔ながらの田園風景・里山風景といった広大な自然景観に恵まれていること、③倉敷市と福山市という中核市に挟まれ、井笠3市2町(笠岡市・井原市・浅口市・里庄町・矢掛町)を加えた総人口は100万人を超え、そのエリアのほぼ中央に位置しており、これらの市町と広域連携していること、④JR山陽本線、山陽自動車道、国道2号、国道2号バイパスといった基幹的な交通軸が通る要衝となっていることなどがあげられます。



(3) 笠岡市の歴史・文化

笠岡の歴史は古く、縄文・弥生時代からの遺跡が残っており、室町時代には、港町としての基礎が築かれ、その後も村上水軍の所領、江戸幕府の直轄領となるなど、我が国の歴史の中でも軍事や交通の要衝として重要な役割を果たしてきた地域です。

また、江戸時代から平成までの数百年間にわたって干拓事業が行われており、長い歴史の中で先人たちによる多大な努力と投資により現在の笠岡市が形成されています。

縄文 〜 平安時代	<ul style="list-style-type: none"> ◆5～6世紀にかけて北川・新山に長福寺裏山古墳群等の古墳が築造された ◆大化の改新以後の国郡制の施行により、笠岡地方は小田郡甲努郷・魚渚郷、浅口郡大島郷等に分割された
鎌倉 〜 戦国時代	<ul style="list-style-type: none"> ◆鎌倉から室町時代にかけて、源平合戦・南北朝の動乱でその名を残す「陶山氏」が台頭 ◆陶山氏は笠岡山城を築き、遍照寺を町の中核に据えて、現在の笠岡の基礎をつくったとされる ◆戦国時代、16世紀の中頃に笠岡は毛利方の「村上氏」の所領となった ◆村上氏は水軍を率いて活躍、笠岡城を築城(※現在の古城山公園はその城跡)
江戸時代	<ul style="list-style-type: none"> ◆1600年の関ヶ原の戦い後、幕府の直轄領となる ◆1619年には備後福山藩の「水野氏」の所領となる ◆干拓により1661年に吉浜新田、1674年には富岡新田が生まれ、独立村となる ◆1698年、再び幕府の直轄領となり、1700年に代官所が設置され、以後幕末まで168年の代官支配が行われた ◆笠岡港は、陣屋町の港として物資が集まり繁栄した
明治 〜 大正時代	<ul style="list-style-type: none"> ◆明治元年5月に倉敷県、続く明治4年11月には深津県の直轄となる ◆明治5年6月、深津県が小田県と改められ、同県の県庁が笠岡に設置される ◆明治8年12月、小田県は岡山県に合併される ◆明治22年6月の町村制施行により、笠岡市域の39か村が合併して15か村に ◆明治24年10月、笠岡村は町制を施行、以後、笠岡町は備中地方の産業・交通・文化の要衝として発達
昭和 〜	<ul style="list-style-type: none"> ◆昭和26年4月に今井村を編入 ◆昭和27年4月に金浦町と合併、市制を施行 ◆昭和28年10月に城見・陶山・大井・吉田・新山・神島内の6か村編入 ◆昭和30年4月に神島外町・白石島村・北木島町・真鍋島村・大島村(柴木地区を除く)編入 ◆昭和33年12月に「富岡湾干拓」完成(現在の番町地区) ◆昭和35年4月に北川村を編入 ◆昭和59年5月に「美の浜埋立」完成 ◆平成2年3月に「笠岡湾干拓」完成、「笠岡市立カブトガニ博物館」が開館

(4) 笠岡市の個性と魅力

笠岡の魅力の一つとして、我が国最初の国立公園である瀬戸内海国立公園区域内にあり、有人7島を含む大小約30の島々からなる笠岡諸島があります。

そのうち有人7島では、それぞれ神武天皇伝説が残る高島、レジャーと文化の白石島、歴史ある石の北木島、祭りと映画の真鍋島、潮待ちと椿の大飛島・小飛島、灯台と水仙の六島といった独自の魅力があり、個性豊かな文化が栄えています。

ほかにも、平成2年に24年間の歳月を経て完成した笠岡湾干拓地では、道の駅を中心として、畑一面に広がる季節の花やトウモロコシ畑など圧巻の風景が楽しめるとともに、同じ干拓地内にある青空市など観光スポットもあり、多くの来訪者で賑わっています。

また、2億年前から変わらぬ姿で現在に生き続ける「生きた化石」として貴重な生き物であるカブトガニが有名であり、国指定天然記念物の「カブトガニ繁殖地」である神島水道をのぞむ場所には、世界で唯一のカブトガニをテーマにした博物館があり、本市の豊かな自然を象徴しています。

